

# 観光英語（11）：京都市の観光名所、清水寺、鹿苑寺、慈照寺 に見られる案内板の英語

福島 一人

## Tourism English (11) : The English Found on Signs in Popular Tourist Sites, the *Kiyomizu-dera*, the *Rokuon-ji* and the *Jishou-ji*, in the City of Kyoto

Kazundo Fukushima

### Abstract

Because the Tokyo Olympic & Paralympic Games are to be held in 2020, more and more foreign tourists are expected to visit Japan. The English signs in Japan's popular tourist sites have to be increased in number and improved in quality so that the tourists will be able to enjoy fruitful and profitable trips to those sites.

Following Fukushima (2016.7), this paper, as a case study, examines the English signs found on signs in the popular tourist sites in the city of Kyoto, such as the *Kiyomizu-dera* [-temple], the *Rokuon-ji* [-temple] (popularly called the *Kinkaku-ji*), and the *Jishou-ji* (popularly called the *Ginkaku-ji*).

The signs discussed here are those which indicate the generally summarized information about these sites.

The methods of writing the explanatory notes and Japanese names of the places, persons, or things will in principle follow Fukushima (2015.7), (2015.9) and (2016.7).

### 1. はじめに

2020 東京オリンピック・パラリンピックの開催が決定し、さらなる外国人観光客の増加が見込まれ、日本の観光地においては、特に国際語である英語案内板の質的・量的<sup>1)</sup>充実が望まれるようになってきている。このことは、日本人観光客の増加にもつながる。

本稿は、事例報告として、福島（2016.7）に引き続き、京都市の観光名所である清水寺、鹿苑寺（金閣寺）、慈照寺（銀閣寺）に見られる英語案内板に検討を加える。

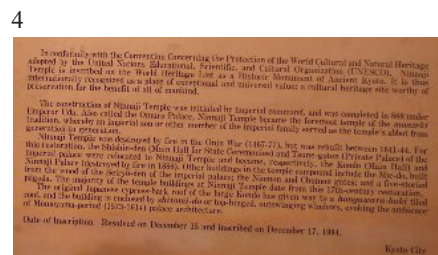
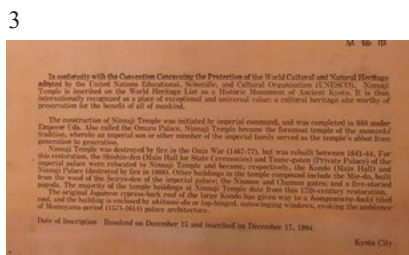
検討を加える案内板は、当該観光名所の「全体にわたって概略を説明」（以後、「包括的説明」とする）を行うものとする。

綴字面などを含めた日本語の英文字表記法については、福島（2015.7）、（2015.9）、（2016.7）の提案に従う。

### 2. 観光庁指針前後の案内板

2014年3月に観光庁指針が出された。指針は、主に英語についてであり、主として日本語の施設

名などの英文字表記方法、また、一般注意書きなどについてである。後者については、日本語の注意書きと英語の注意書きを可能な限り矛盾させない、ということが読み取れる。



本稿で扱う包括的説明を行う案内板については直接言及していないが、指針発表前後の案内板に異同が見られるかどうか

比較する。2014年より前と2014年より後に筆者が撮影した、鹿苑寺（金閣寺）と仁和寺の案内板の比較を行う。双方とも、世界歴史遺産登録を示す京都市作成の案内板である。

鹿苑寺（金閣寺）について、1は2013年6月に撮影したものの、2は2016年6月に撮影したものである。内容面、書式面も、まったく変わっていない。

仁和寺について、英語説明のみトリミングした。3は2013年6月に撮影したものの、4は2016年6月に撮影したものである。内容面、書式面も、まったく変わっていない。

観光庁指針 p.3「本ガイドラインの位置付けについて」では、「自治体や国の既存のガイドラインの内容を踏まえて深堀し…幅広い分野で共通する指針を盛り込んだものである。」と述べている。既存のガイドラインについて、「京都市観光案内標識アップグレード指針」（平成23年京都市）を挙げている。1と2、そして、3と4が同一ということは、観光庁指針は京都の案内板を、かなり参考にしてしていると推測できる。<sup>2)</sup>

上記の「包括的説明」を行う案内板内の綴字など書式は、2016年に撮影した他の世界遺産の建造物における案内板でも同じである。

以下、京都観光名所、清水寺、鹿苑寺（金閣寺）、慈照寺（銀閣寺）の、世界遺産指定の記述が存在する、包括的説明を行う案内板について検討を加える。

### 3. 京都市観光名所の案内板

京都市は、世界的に有名な観光地であり、外国人観光客の数が日本一と言えよう。アメリカの大手旅行会社、“Travel + Leisure”社も世界の魅力的な都市の1位に評価している。四季を通じて多くの観光客が訪れる。市内を循環するバスなど、交通の便が充実している。

京都府ホームページには、「世界文化遺産 古都京都の文化財一覧」として17か所が挙げられて

いる。本稿では、これらのうちでもっとも人気があると言われる3つの寺院、清水寺、鹿苑寺（金閣寺）、慈照寺（銀閣寺）に見られる、包括的説明を行う案内板について検討を加える。すべて、2016年6月17日に撮影したものであり、観光庁指針が出されてから2年を超えて経過した案内板である。

### 3. 1 清水寺

清水寺は、外国人観光客の数が京都市の寺院では最高と一般的に言われている。画像5の、三重塔や経堂などを従えた清水寺本堂（「清水の舞台」と呼ばれることが多い）の眺めは京都の典型的な景観と思われる。画像6は清水寺の包括的説明を行う京都市作成の案内板である。双方共に、2016年6月17日に本稿執筆者自身が撮影したものである。



6は、入り口近くではなく、本堂近くに存在し、見落とされる可能性が高いと思われる。入り口近くへの移動を提案する。

6は、入り口近くではなく、本堂近くに存在し、見落とされる可能性が高いと思われる。入り口近くへの移動を提案する。

日本語説明と英語説明は内容が一致する。双方ともに、情報過多と思える。語数が多い。本文の英語説明は387語からなる。しかし、敷地が広大で、建造物が多いことからすると、無理からぬこととも思われる。

日本語説明文中に、一般日本人には読めない漢字名称が多く見られる。（振り仮名）を補うべきと思われる。<sup>3)</sup>

第一段落の「世界遺産指定」の記述は、建造物名である「清水寺は」から始めており、これは、福島が調査した他の京都市内の世界遺産である鹿苑寺（金閣寺）、慈照寺（銀閣寺）、龍安寺、仁和寺、二条城と共通している。また、第二段落も「清水寺は」で始めており、このことも、調査した他の世界遺産のものとも共通している。冒頭の「清水寺」は表題に相当するものであるから、読み手が認知しやすいように、現地日本語説明最後の「京都市」に合わせて、文字サイズを大きくし太字にすることを提案する。

日本語説明文は、以下の通りである。「清水寺」の文字サイズを大きくし太字にすること、（振り仮名）を入れることを本稿執筆者は提案する。

**清水寺**は、ユネスコ（国際連合教育科学文化機関）で採択された世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約に基づき、「古都京都の文化財」のひとつとして世界遺産リストに登録されました。このことは、人類全体の利益のために保護する価値の

ある文化遺産として、とくに優れて普遍的価値をもっていることを国際的に認められたことになります。

**清水寺**は、『清水寺縁起』によると、宝亀9年(778)僧延鎮が音羽の滝上に観音を祀ったことに始まり、延暦17年(798)には坂上田村麻呂が仏殿を建立して桓武天皇の勅願寺となったと伝えます。創建後何度も火災によって焼失しましたが、その都度再建され、現在は西門(さいもん)・三重塔・経堂・田村堂・轟門・朝倉堂・本堂・阿弥陀堂が東西に並び、そのほか周囲に仁王門・馬駐(うまとどめ)・鐘楼・北総門・釈迦堂・奥ノ院・子安塔・鎮守堂(春日社)、そして鎮守社の地主神社社殿が建っています。大半の建物は17世紀前半に再建されたものですが、こうした景観は13世紀には成立していました。

伽藍の中心となる本堂は寛永10年(1633)に再建された懸造(かけづくり)の建物で、いわゆる「清水の舞台」として知られ、林立する高い束柱(つかばしら)に貫(ぬき)を縦横に通して豪快な姿をみせています。また、仏堂である石敷の内陣(ないじん)と礼堂である板敷の外陣(げじん)からなる本体に裳階(もこし)、正面庇(しょうめんひさし)、翼廊(よくろう)、舞台がつくという平面や、その全体に寄棟造・檜皮葺(ひわだぶき)の大屋根をかける架構は、平安時代からの形を受け継ぐものです。

これらの建造物のほか、境内の東寄りには江戸時代初期の借(しゃっけい)景の技法を用いた成就院庭園が設けられています。なお、これらの周囲に広がる自然景観もみごとです。

登録年月日 平成6年(1994)12月15日決定、17日登録  
京都市

英語説明は以下の通りである。「世界遺産指定」の記述を除いた本文は、387語からなる。本文は、3段落10文からなる。

In conformity with the Convention Concerning the Protection of the World Cultural and Natural Heritage adopted by the United Nations Educational, Scientific, and Cultural Organization (UNESCO), Kiyomizu-dera Temple is inscribed on the World Heritage List as a Historic Monument of Ancient Kyoto. It is thus internationally recognized as a place of exceptional and universal value : a cultural heritage site worthy of preservation for the benefit of all of mankind.

According to the *Chronicle of Kiyomizu-dera Temple*, Kiyomizu-dera Temple originated in 778 when the monk Enchin enshrined an image of Kannon on the mountain overlooking the Otowa-no taki Falls; later, in 798, the distinguished general Sakanoue no Tamuramaro built a Buddha hall there, following which Kiyomizu-dera Temple came under the official patronage of Emperor Kanmu. Repeatedly destroyed by fire over the centuries, it was rebuilt on each occasion. Today, the principal temple buildings are the Saimon (West Gate), the three-storied pagoda, the Kyodo (Sutra Hall), the Tamurado (Founder's Hall), the Todorokimon (Middle Gate), the Asakurado Hall, the Hondo (Main Hall), the Amidado (Amida Buddha Hall), all aligned on an east-west axis. Around them are other temple buildings, including the Niomon (Gate of Deva Kings), the Umatodome (hitching Stables), the Shoro (Belfry), the Shakado (Shakyamuni Hall), the Okunoin (Innermost Temple), the Koyasanoto Pagoda, the Chinjudo, and the Jishu Shrine, wherein is enshrined the local Shinto tutelary deity.

The Hondo, built in 1633, is the central building of the temple compound and is an example of *kake-zukuri* or "overhang" architecture. It is famous for its so-called "Kiyomizu-dera stage," an imposing veranda supported by a forest of tall wooden columns with wooden braces running through them crosswise and lengthwise. The building, which consists principally of the stone-floored sanctuary (*naijin*), which houses the temple's primary Buddhist statue, and the plank-floored worship hall (*gejin*), is characterized below by its false roofs (*mokoshi*) underneath the main roof, by its front *hisashi* (a narrow, roofed area), and by its flanking wings and its stage; and above by a framework supporting a Yosemite-style hip-ridged roof of *hinoki*, or cypress bark. This architectural form is handed down from the Heian period (794-1184).

In addition to its buildings, the eastern part of the temple compound also contains the Joju-in Garden, which incorporates the early Edo-period technique of "borrowed scenery" (*shakkei*). The natural scenery surrounding Kiyomizu-dera Temple is also quite beautiful.

Date of Inscription Resolved on December 15 and inscribed on December 17, 1994.

Kyoto City



日本語説明、英語説明共に、第一段落の「世界遺産登録」の記述は、本稿で挙げる、他の京都市内の世界遺産、鹿苑寺、慈照寺と共通する文体である。また、最後の登録年月日についても、他の世界遺産と共通している。

本稿で挙げる以上の案内板のすべての英語説明が、各段落共に、3文字分スペースを空けていることには賛成できる。

「世界遺産登録」、「登録年月日」を除いた本文の記述について、日本語説明、英語説明共に、「清水寺の歴史」→「現在の建造物」→「(ウリである)本堂」→「その他の見所(成就院)」の順に説明している。この記述順については賛成できる。しかし、総じて、日本語説明、英語説明共に、本文が「長過ぎる」と感じられる。また、修飾関係が複雑で読みづらい部分が存在する。

他の京都市の世界遺産建造物と共通する「世界遺産登録」の記述について検討を加えたあと、英語説明の本文を段落ごとに検討を加える。並み活字は現地のもの。太字は福島の本加筆修正案を加えたもの。各文の後の赤字の番号は福島による。また、原文のアンダーラインも福島による。

「世界遺産登録」の原文は以下の通りである。2文からなる。

In conformity with the Convention Concerning the Protection of the World Cultural and Natural Heritage adopted by the United Nations Educational, Scientific, and Cultural Organization (UNESCO), Kiyomizudera Temple is inscribed on the World Heritage List as a Historic Monument of Ancient Kyoto.<sup>1</sup> It is thus internationally recognized as a place of exceptional and universal value : a cultural heritage site worthy of preservation for the benefit of all of mankind.<sup>2</sup>

原文1について提案を行う。福島はこれまで、表題に相当するものを文頭にすることを提案してきた。日本語説明も「清水寺」を文頭にしている。日本語を学習する外国人のために“dera”が“temple”を意味することを明示し、「清水寺」を“The Kiyomizu-dera [-temple]”とし、文頭に移動することを提案する。

原文2について、「人類全体の利益のために」は、“all of mankind”で問題はないが、中性的な名詞“people”を使用し、かつ、より平明にし、敢えて、“for the benefit of people all over the world”とすることを提案する。鹿苑寺、慈照寺についても同様の提案を行う。

「世界遺産登録」の記述は、以下を提案する。

**The Kiyomizu-dera [-temple] is inscribed on the World Heritage List as a Historic Monument of Ancient Kyoto, in conformity with the Convention Concerning the Protection of the World Cultural and Natural Heritage adopted by the United Nations Educational, Scientific, and Cultural Organization (UNESCO). It is thus internationally recognized as a place of exceptional and universal value : a cultural heritage site worthy of preservation for the benefit of people all over the world.**

本文中のウリである、「本堂」の記述を副題として挙げる。

—Hon-dou (Kiyomizu-no-butai), an Archetypal Image of Kyoto—

本文は3段落10文からなる。原文のアンダーライン、文末の赤い数字は執筆者による。

本文の第一段落は次の通りである。4つの文からなる。内容が異なるものを1つの段落におさめ

ており、読みづらい。

According to the *Chronicle of Kiyomizu-dera Temple*, Kiyomizu-dera Temple originated in 778 when the monk Enchin enshrined an image of Kannon on the mountain overlooking the Otowa-no taki Falls; later, in 798, the distinguished general Sakanoue no Tamuramaro built a Buddha hall there, following which Kiyomizu-dera Temple came under the official patronage of Emperor Kanmu.<sup>1</sup> Repeatedly destroyed by fire over the centuries, it was rebuilt on each occasion.<sup>2</sup> Today, the principal temple buildings are the Saimon (West Gate), the three-storied pagoda, the Kyodo (Sutra Hall), the Tamurado (Founder's Hall), the Todorokimon (Middle Gate), the Asakurado Hall, the Hondo (Main Hall), the Amidado (Amida Buddha Hall), all aligned on an east-west axis.<sup>3</sup> Around them are other temple buildings, including the Niomon (Gate of Deva Kings), the Umatodome (hitching Stables), the Shoro (Belfry), the Shakado (Shakyamuni Hall), the Okunoin (Innermost Temple), the Koyasunoto Pagoda, the Chinjudo, and the Jishu Shrine, wherein is enshrined the local Shinto tutelary deity.<sup>4</sup>

原文 1 は「清水寺縁起」の内容である。日本語説明に合わせ、歴史的事実を時系列に 1 つの文にまとめているが、読みづらく感じられる。セミコロンや、“following which” という関係詞構造の使用をやめ、3 つの文に分ける。前の「世界遺産指定」の表記に合わせて、“*Kiyomizu-dera*” とする。「坂上田村麻呂」について明確にする。福島 (2015.9) の提案に従い、“Kanmu” を “**Kan'mu**” とする。原文 2 の「創建後何度も火災により焼失しましたが ……」という歴史的事実は、再建に関することなので、別段落にする。譲歩用法分詞構文 “Repeatedly destroyed…” は、“**Although…**” と、譲歩の意味を明確にする。

以下の如くすることを提案する。

According to the *Chronicle of Kiyomizu-dera Temple*, the *Kiyomizu-dera* originated in 778 when the monk Enchin enshrined an image of Kan'nōn on the mountain overlooking *Otowa-no-taki* [-falls].<sup>1</sup> Later, in 798, Sakanoue-no-Tamura-maro, a distinguished general before the *Kamakura-jidai* [-period], built a Buddha hall there.<sup>2</sup> Soon after that, the *Kiyomizu-dera* came under the official patronage of Emperor Kan'mu.<sup>3</sup>

**Although the *Kiyomizu-dera* was repeatedly destroyed by fire over the centuries, it was rebuilt on each occasion.** <sup>1</sup>

同じく第一段落の原文 3、原文 4 は、清水寺の現在の建築物を説明しているので、別段落とする。3 つの文に分ける。日本語施設名を英文字表記とし、そのあとに ( ), [ ] で英語説明を加える。原文 3 の、建築物の配置を表す独立分詞構文 “all aligned on an east-west axis” を “**All of these buildings are aligned on an east-west axis.**” とし、文として独立させる。

以下の如くすることを提案する。

The present existing temple buildings are : the *Sai-mon* (west gate), the *Sanjuu-no-tou* (three-storied pagoda), the *Kyou-dou* (sutra hall), the *Tamura-dou* (founder's hall), the *Todoroki-mon* (middle gate), the *Asakura-dou*, the *Hon-dou* (main hall), and the *Amida-dou* (Amida Buddha hall).<sup>1</sup> **All of these buildings are aligned on an east-west axis.**<sup>2</sup> Around them are other temple buildings, such as the *Niomon* (gate of the Deva Kings), the *Uma-todome* (hitching stables), the *Shou-rou* (belfry), the *Shaka-dou* (Sakyamuni hall), the *Okuno-in* (innermost temple), the *Koyasu-no-tou* [-pagoda], the *Chinju-dou* (tutelary hall), and the *Jishu-jinja* [-shrine], wherein is enshrined the local Shinto tutelary deity.<sup>3</sup>

本文の第二段落は次の通りである。4つの文からなる。

The Hondo, built in 1633, is the central building of the temple compound and is an example of *kake-zukuri* or “overhang” architecture.1 It is famous for its so-called “Kiyomizu-dera stage,” an imposing veranda supported by a forest of tall wooden columns with wooden braces running through them crosswise and lengthwise.2 The building, which consists principally of the stone-floored sanctuary (*naijin*), which houses the temple’s primary Buddhist statue, and the plank-floored worship hall (*gejin*), is characterized below by its false roofs (*mokoshi*) underneath the main roof, by its front *hisashi* (a narrow, roofed area), and by its flanking wings and its stage; and above by a framework supporting a Yosemite-style hip-ridged roof of *hinoki*, or cypress bark.3 This architectural form is handed down from the Heian period (794-1184).4

清水寺の「ウリ」と言える、所謂「清水の舞台」で有名な「本堂」の説明である。典型的な「京都像」ということで、本文の前に副題として記述することを提案する。

原文1について、建築年度と中心的な存在という記述を文として独立させ、段落を分けることを提案する。

原文1と原文2中の「懸造（かけづくり）」と「清水の舞台」を1つの文にまとめる。「かけづくり」を“*kake-dzu[du]kuri* (overhang architecture)”と表記する。福島(2015.7)、(2015.9)に従い、「づ」を“*dzu[du]*”と表記する。「清水の舞台の構造」については、別な文とする。代名詞ではなく、“*The Kiyomizu-no-butai*”を主語とする。

原文3は長過ぎると感じられる。特に、最初の関係詞節の構成素の「内陣（ないじん）」をさらに関係詞節で説明する構造は、文法的には問題がないが不自然に感じられる。「本堂の構成」、「内陣」、「外陣（げじん）」を独立した文に分ける。さらに「本堂の建築上の構造」について、独立した文にする。原文には存在しない、清水寺で最大の「ウリ」である本堂について、「斜め上から見た本堂の眺めは典型的な京都像と言われている。」という内容の文を加えることを提案する。建築の部位名は日本語の英文字表記、英語説明の順にする。そして、修正も加えれば、原文の「裳階（もこし）」は“*the Mokoshi* (false decorative roofs)”、「寄棟造の屋根」は“*the Yosemite [hip-ridged]-style roof*”と表記する。

原文の第二段落を9文にすることを提案する。添付した画像が本堂の画像であることを加える。

**The Hon-dou** (seen in the photo), rebuilt in 1633, is the central building of the temple compound.1 It is an example of the *kake-dzu[du]kuri* (overhang architecture), and is famous for its so-called *Kiyomizu-no-butai* [-stage].2 The *Kiyomizu-no-butai* is an imposing veranda supported by a forest of tall wooden columns with wooden braces running through them crosswise and lengthwise.3 The *Hon-dou* can be separated into two places, the *Nai-jin* and the *Ge-jin*.4 The *Nai-jin* is the stone-floored sanctuary with the temple’s Buddhist statue.5 The *Ge-jin* is the plank-floored worship hall.6 The structure of the *Hon-dou* has the *Mokoshi* (false decorative roofs), the *Shoumen-hisashi* (front narrow, roofed area), the *Yokurou* (flanking wings), and the *Butai* [stage] set underneath the *Yosemite* [hip-ridged]-style roof made of cypress bark.7 This architectural form has been handed down from the *Heian-jidai* (794-1184).8 The view of the *Hon-dou* seen from diagonally above is said to form an archetypal image of Kyoto.9

本文の第三段落は次の通りである。2つの文からなる。

In addition to its buildings, the eastern part of the temple compound also contains the Joju-in Garden,

which incorporates the early Edo-period technique of “borrowed scenery” (*shakkei*).<sup>1</sup> The natural scenery surrounding Kiyomizu-dera Temple is also quite beautiful.<sup>2</sup>

本文第三段落の原文 1 について、“*Jouju-in Teien [garden]*” とする。日本語説明では、「江戸時代の借景の技法を用いた成就院庭園」であるので、“incorporates” より “**adopted**” とすることを提案する。原文 2 について、日本語説明には存在しないが、「建造物に合う」、「四季を通じて」 “**matches the buildings**”、“**in all seasons**” を加える。

以下の如くすることを提案する。

**In addition to these buildings, the eastern part of the temple compound also contains the *Jouju-in Teien [garden]*, which adopted the early *Edo-jidai [-period]* technique of what is called the *shakkei* (borrowed scenery).<sup>1</sup> The natural scenery surrounding the *Kiyomizu-dera* matches the buildings and is also quite beautiful in all seasons.<sup>2</sup>**

以上本文の加筆修正案の本文は、5 段落 18 文となる。

Date of Inscription Resolved on December 15 and inscribed on December 17, 1994.

Kyoto City

「世界遺産登録年月日」について、問題は見当たらない。他の世界遺産の建造物の案内板についても同様である。

加筆修正案を含め、全体をまとめると、次の通りである。画像 5 の、三重塔や経堂などを従えた本堂（清水の舞台）の画像、さらに、本稿では挙げないが、本堂の構造図面を添付して、英語説明の案内板を独立させて設置することを提案する。

**The *Kiyomizu-dera [-temple]* is inscribed on the World Heritage List as a Historical Monument of Ancient Kyoto, in conformity with the Convention Concerning the Protection of the World Cultural and Natural Heritage adopted by the United Nations Educational, Scientific, and Cultural Organization (UNESCO). It is thus internationally recognized as a place of exceptional and universal value : a cultural heritage site worthy of preservation for the benefit of people all over the world.**

### **—*Hon-dou (Kiyomizu-no-butai)*, an Archetypal Image of Kyoto—**

According to the *Chronicle of Kiyomizu-dera Temple*, the *Kiyomizu-dera* originated in 778 when the monk Enchin enshrined an image of Kan’non on the mountain overlooking *Otowa-no-taki [-falls]*. Later, in 798, Sakanoue-no-Tamuramaro, a distinguished general before the *Kamakura-jidai [-period]*, built a Buddha hall there. Soon after that, the *Kiyomizu-dera* came under the official patronage of Emperor Kan’mu.

Although it was repeatedly destroyed by fire over the centuries, it was rebuilt on each occasion.

The present existing temple buildings are : the *Sai-mon* (west gate), the *Sanjuu-no-tou* (three-storied pagoda), the *Kyou-dou* (sutra hall), the *Tamura-dou* (founder’s hall), the *Todoroki-mon* (middle gate), the *Asakura-dou*, the *Hon-dou* (main hall), and the *Amida-dou* (Amida Buddha hall). All of these buildings are aligned on an east-west axis. Around them are other temple buildings, such as the *Niou-*



*mon* (gate of the Deva Kings), the *Uma-todome* (hitching stables), the *Shou-rou* (belfry), the *Shaka-dou* (Sakyamuni hall), the *Okuno-in* (innermost temple), the *Koyasu-no-tou* [-pagoda], the *Chinju-dou* (tutelary hall), and the *Jishu-jinja* [-shrine], wherein is enshrined the local Shinto tutelary deity.

*Hon-dou* (*Kiyomizu-no-butai*)



The *Hon-dou* (seen in the photo), rebuilt in 1633, is the central building of the temple compound. It is an example of the *kake-dzu[du]kuri* (overhang architecture), and is famous for its so-called *Kiyomizu-no-butai* [-stage]. The *Kiyomizu-no-butai* is an imposing veranda supported by a forest of tall wooden columns with wooden braces running through them crosswise and lengthwise. The *Hon-dou* can be separated into two places, the *Nai-jin* and the *Ge-jin*. The *Nai-jin* is the stone-floored sanctuary with the temple's Buddhist statue. The *Ge-jin* is the plank-floored worship hall. The structure of

the *Hon-dou* has the *Mokoshi* (false decorative roofs), the *Shoumen-hisashi* (front narrow, roofed area), the *Yokurou* (flanking wings), and the *Butai* [stage] set underneath the *Yosemune* [hip-ridged]-style roof made of cypress bark. This architectural form has been handed down from the *Heian-jidai* (794-1184). The view of the *Hon-dou* seen from diagonally above is said to form an archetypal image of Kyoto.

In addition to these buildings, the eastern part of the temple compound also contains the *Jouju-in Teien* [garden], which adopted the early *Edo-jidai* [-period] technique of what is called the *shakkei* (borrowed scenery). The natural scenery surrounding the *Kiyomizu-dera* matches the buildings and is also quite beautiful in all seasons.

**Date of Inscription** Resolved on December 15 and inscribed on December 17, 1994.

**Kyoto City**

加筆修正案は、原文に沿って提案した。そのため、副題を含めて、本文が382語となった。「長過ぎる」という印象を否めない。境内の建造物の細かい記述を削除するべきであろう。

### 3. 2 鹿苑寺（通称、「金閣寺」）

画像7の、衣笠山を借  
7  
景とした鹿苑寺金閣の眺  
めは、清水寺の画像5の  
ものと同様、古都京都  
の典型的な景観と思われ  
る。画像8は鹿苑寺（通  
称、「金閣寺」）の包括的  
説明を行う京都市作成の  
案内板である。7は2013



8



年6月に、8は2016年6月に執筆者自身が撮影したものである。

8は、鹿苑寺の入り口近く、観光客が気づきやすい場所に存在する。

日本語説明と英語説明は内容が一致する。双方共に、本文は適度な情報量と言えよう。因みに、英語説明の、「世界遺産登録」と「登録年月日」を除いた、本文は212語である。外国人観光客にとって、抵抗の無い語数であるが、修飾関係など複雑で読みにくいと感じられる文が存在する。

日本語説明、英語説明は以下の通りである。現地の日本語説明文中の「鹿苑寺」の文字サイズを大きくし太字にすること、(振り仮名)を入れることを提案する。

**鹿苑寺**は、ユネスコ（国際連合教育科学文化機関）で採択された世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約に基づき、「古都京都の文化財」のひとつとして世界遺産リストに登録されました。このことは、人類全体の利益のために保護する価値のある文化遺産として、とくに優れて普遍的価値をもっていることを国際的に認められたこととなります。

**鹿苑寺**は、鎌倉時代に造られた貴族の別荘を、足利義満が応永4年（1397）に譲り受けて粹を尽くした別邸北山殿（きたやまどの）に造り替え、さらに義満の死後応永29年に、夢窓疎石を開山とする禅寺とされたことに始まります。その後衰微しましたが、江戸時代に金閣および庭園の修理がなされました。

庭園は、衣笠山を借景（しゃっけい）に、既存の池にさまざまな名石を据え、池に向かって三層の豪華な舍利殿金閣を建て、山上に展望所を建てています。金閣は、屋根をこけら葺とし、第二・三層全面に金箔を押すという、北山文化の象徴となる華麗な建築で、義満の権威と王朝への憧れが示されています。なお、金閣は昭和25年（1950）に火災により焼失しましたが、昭和30年に復元的に再建されました。

登録年月日 平成6年（1994）12月15日決定、17日登録  
京都市

英語説明は以下の通りである。「世界遺産指定」の記述を除いた本文は、212語からなる。本文は、2段落7文からなる。

In conformity with the Convention Concerning the Protection of the World Cultural and Natural Heritage adopted by the United Nations Educational, Scientific, and Cultural Organization (UNESCO), Rokuonji Temple is inscribed on the World Heritage List as a Historic Monument of Ancient Kyoto. It is thus internationally recognized as a place of exceptional and universal value: a cultural heritage site worthy of preservation for the benefit of all of mankind.

Originally built in the Kamakura period (1185-1332) as an aristocrat's country estate, and taken possession of in 1397 by retired shogun Ashikaga Yoshimitsu, who turned it into a supremely refined and elegant country villa called Kitayama-dono (the Kitayama Palace), Rokuonji's birth as a Buddhist temple occurred in 1422, when, following Yoshimitsu's death, it was converted into a Zen temple, with the monk Muso Soseki as its founding abbot. The temple later fell into decline; however, the Golden Pavilion and temple gardens were largely restored during the Edo period (1615-1867).

The temple garden was designed to incorporate Mt. Kinugasayama as *shakkei* or "borrowed scenery." In the course of creating the garden, various specially selected rocks were installed in the existing pond; the Shariden, better known as the Kinkaku or "Golden Pavilion," was constructed; and a scenic lookout site was built at the top of the mountain. Overlooking the pond is the Golden Pavilion. This magnificent structure, with its shingled roofs and with its second and third floors entirely gilded with gold leaf, epitomizes the so-called "Kitayama culture" of the period, and reveals Yoshimitsu's dynastic aspirations. The Golden Pavilion was burned to the ground in 1950, and an exact reproduction of the original building was completed in 1955.

Date of Inscription Resolved on December 15 and inscribed on December 17, 1994.

Kyoto City

日本語説明、英語説明共に、第一段落の「世界遺産登録」の記述は、本稿で挙げる、他の京都市内の寺院と共通する文体である。また、最後の登録年月日についても、他の世界遺産と共通している。英語説明が、各段落共に、3文字分スペースを空けていることには賛成できる。「世界遺産登録」、「登録年月日」を除いた本文の記述について、日本語説明、英語説明共に、「鹿苑寺の歴史」→「庭園の特色」→「(ウリである)金閣」→「金閣の焼失と復原」の順に説明している。この記述順について賛成できる。

他の世界遺産建造物と共通する「世界遺産指定」の記述について加筆修正案をまず挙げた後、本文を段落ごとに検討を加える。本文の原文は2段落7文からなる。語数は適量と思われる。太字は執筆者が加筆修正を加えたものである。

「世界遺産登録」の記述については、「清水寺」で提案した文体に準じる。但し、通称、「金閣寺」とされていること “**popularly called the Kinkaku-ji,**” を加える。日本語を学習する外国人のために “**ji**” が “**temple**” を意味することを明示する。「鹿苑寺」を “**The Rokuon-ji [-temple]**” とし、文頭に移動する。「人類全体の利益のために」を「清水寺」のものに合わせ、“**for the benefit of people all over the world**” とすることを提案する。

「世界遺産登録」の記述は、以下を提案する。

**The Rokuon-ji [-temple], popularly called the Kinkaku-ji, is inscribed on the World Heritage List as a Historic Monument of Ancient Kyoto, in conformity with the Convention Concerning the Protection of the World Cultural and Natural Heritage adopted by the United Nations Educational, Scientific, and Cultural Organization (UNESCO). It is ~~thus~~ internationally recognized as a place of exceptional and universal value : a cultural heritage site worthy of preservation for the benefit of people all over the world.**

本文中のウリである、「金閣」の記述を副題として挙げる。「京都の魅力的な建築物の一つ」であることを記す。

—**Kin-kaku (“golden” pavilion) in the precincts of Rokuon-ji [-temple] , one of the most fascinating examples of architecture in Kyoto—**

本文の原文は、2段落7文212語から成る。分詞構造、関係詞構造、並列構造などを使用することによる「長文化」の例が見られる。原文のアンダーライン、文末の赤い数字は執筆者による。

原文の第一段落は2文から成る。次の通りである。起源を含め、江戸時代までの「鹿苑寺の歴史」を記している。

Originally built in the Kamakura period (1185-1332) as an aristocrat’s country estate, and taken possession of in 1397 by retired shogun Ashikaga Yoshimitsu, who turned it into a supremely refined and elegant country villa called Kitayama-dono (the Kitayama Palace), Rokuonji’s birth as a Buddhist temple occurred in 1422,

when, following Yoshimitsu's death, it was converted into a Zen temple, with the monk Muso Soseki as its founding abbot.<sup>1</sup> The temple later fell into decline; however, the Golden Pavilion and temple gardens were largely restored during the Edo period (1615-1867).<sup>2</sup>

原文 1 は、文法的誤りは見られないが「長過ぎる」と感じられる。修飾関係が複雑である。「鎌倉時代の起源」、「室町時代における足利義満との関わり」、「義満の死後、禅寺への転換」の内容が一つの文で記されている。原文 1 を 3 文に分けることを提案する。“Originally built...”, “who...”, “following...” の分詞構造や関係詞構造を文として独立させるなどする。最初は「鹿苑寺」という名称ではなかったことを明確にし、“**The site on which the Rokuon-ji now stands**” とする。「義満の死後に、鹿苑寺という禅寺に変わった」という内容であるので、“**...it was converted into a Zen temple, and was given its present name, the Jishou-ji.**” とする。日本の年号、「鎌倉時代」は“**the Kamakura-jidai [-period]**”と表記する。以下、「室町時代」、「江戸時代」についても同様に表記する。但し、“[-period]”は省略する。義満が室町時代の一将軍であることを明示し、前文の鎌倉時代に合わせ、“(1336-1573)”を加える。金閣の「金」は、一種の直訳であるので、金閣を“(“golden” pavilion)”と説明する。<sup>4)</sup>

原文 2 は、「荒廢の憂き目にあったこと」、「江戸時代における金閣、庭園の修復」を 2 文で記すことを提案する。「(修理・手入れなどがされず) 荒廢した」の意味を明確にし、“**fell into disrepair**” とする。

原文の第一段落の 2 文を、以下の如く、1 段落 5 文に分けることを提案する。

**The site on which the Rokuon-ji now stands was originally built in the Kamakura-jidai [-period] (1185-1332) as an aristocrat's country estate.<sup>1</sup> Ashikaga Yoshimitsu, a retired shogun in the Muromachi-jidai (1336-1573), took possession of the site in 1397, and turned it into a supremely refined and elegant country villa called the Kitayama-dono [-palace].<sup>2</sup> After Yoshimitsu's death, in 1422, it was converted into a Buddhist Zen temple, and was given its present name, the Rokuon-ji, whose founding abbot was the monk Musou Soseki.<sup>3</sup> Thereafter the temple fell into disrepair.<sup>4</sup> During the Edo-jidai (1615-1867), such facilities as the Kin-kaku (“golden” pavilion) and the temple garden were largely restored.<sup>5</sup>**

原文の第二段落は、5 文からなる。

The temple garden was designed to incorporate Mt. Kinugasayama as *shakkei* or “borrowed scenery.”<sup>1</sup> In the course of creating the garden, various specially selected rocks were installed in the existing pond; the Shariden, better known as the Kinkaku or “Golden Pavilion,” was constructed; and a scenic lookout site was built at the top of the mountain.<sup>2</sup> Overlooking the pond is the Golden Pavilion.<sup>3</sup> This magnificent structure, with its shingled roofs and with its second and third floors entirely gilded with gold leaf, epitomizes the so-called “Kitayama culture” of the period, and reveals Yoshimitsu's dynastic aspirations.<sup>4</sup> The Golden Pavilion was burned to the ground in 1950, and an exact reproduction of the original building was completed in 1955.<sup>5</sup>

原文の第二段落は庭園と金閣について、5 文で記されている。「借景 (しゃっけい) という庭園技法の採用」、「庭園の内容」、「金閣の説明」、「金閣の焼失と復原」を記している。

原文 2 は庭園の内容の一つとして、金閣を同一文中に含めているが、金閣と展望所は、建造物であるので、文を分ける。原文 3 と原文 4 の金閣の詳しい説明は別段落とする。原文 5 の「金閣の焼失と復原」は、さらに別段落とする。

原文1の内容は、日本語説明では「衣笠山を借景に」としている。これは「衣笠山を借景の中に組み入れる」とするべきであろう。福島(2016.7)の提案に従い、「衣笠山」を“*Kinugasa-yama [-mountain]*”とし、鹿苑寺近くの山であることを明示する。“**incorporate *Kinugasa-yama [-mountain]* (the nearby mountain) in...**”とする。

原文2の、「様々な名石を据え...」と「舍利殿金閣を建て...」を2文に分ける。「金閣」という名称の方が、馴染みがあると思われるので、記述順を入れ替え「舍利殿」を付加説明とする。“***Kin-kaku***”と音節区分する。庭園内の「山」であるが、「衣笠山」と混同されるのを避けるために、“**at the top of the hill in the garden**”とする。

原文3は、形容詞用法の分詞構造に変え、「金閣」の付加説明とする。原文の第四文の“*This magnificent structure*”を“**The magnificent *Kinkaku***”とする。この文と原文4は、鹿苑寺のウリである「金閣」の説明部分である。これらを一つの段落にまとめる。そして、段落を分ける。「武家文化と公家文化の融合」という現地の古い木製の案内板に記されていた情報、“**the combined architectural style of the samurai and aristocrat cultures.**”を加える。尚、「武士・武家」“*samurai*”と英米の辞書では定着しているが、“*samurai*”とイタリック体を使用する。

原文5の「金閣の焼失と復原」は、慈照寺銀閣と異なる、重要事項であるので段落を分ける。

原文の第二段落を、以下の通り、3段落7文に分けることを提案する。

**The temple garden was designed to incorporate *Kinugasa-yama [-mountain]* (the nearby mountain) in what is called the *shakkei* (borrowed scenery).<sup>1</sup> In the course of laying out the garden, various specially selected rocks were installed in the existing pond.<sup>2</sup> The *Kin-kaku*, formally called the *Shariden*, was constructed, and a scenic lookout was built at the top of the hill in the garden.<sup>3</sup> The magnificent *Kin-kaku*, overlooking the pond, has shingled roofs.<sup>1</sup> Its second and third floors are entirely gilded with gold leaf, and epitomizes the so-called “*Kitayama culture*” of the *Muromachi-jidai*.<sup>2</sup> We can feel Yoshimitsu’s dynastic aspirations, in the combined architectural style of the *samurai* and aristocrat cultures.<sup>3</sup> The *Kin-kaku* was burned to the ground in 1950, and an exact reproduction of the original building was completed in 1955.<sup>1</sup>**

加筆修正案を含め、全体をまとめると、次の通りである。画像7の衣笠山を背景とした「金閣」の画像を添付して、英語説明の案内板を独立させて設置することを提案する。

**The *Rokuon-ji [-temple]*, popularly called the *Kinkaku-ji*, is inscribed on the World Heritage List as a Historic Monument of Ancient Kyoto, in conformity with the Convention Concerning the Protection of the World Cultural and Natural Heritage adopted by the United Nations Educational, Scientific, and Cultural Organization (UNESCO). It is ~~thus~~ internationally recognized as a place of exceptional and universal value : a cultural heritage site worthy of preservation for the benefit of people all over the world.**

**—*Kin-kaku* (“golden” pavilion) in the precincts of *Rokuon-ji [-temple]* , one of the most fascinating examples of architecture in Kyoto—**



*Kin-kaku* (“golden” pavilion)



The site on which the *Rokuon-ji* now stands was originally built in the *Kamakura-jidai* [-period] (1185-1332) as an aristocrat’s country estate. Ashikaga Yoshimitsu, a retired shogun in the *Muromachi-jidai* (1336-1573), took possession of the site in 1397, and turned it into a supremely refined and elegant country villa called the *Kitayama-dono* [-palace]. After Yoshimitsu’s death, in 1422, it was converted into a Buddhist Zen temple, and was given its present name, the *Rokuon-ji*, whose founding abbot was the monk Musou Soseki. Thereafter the temple fell into disrepair.

During the *Edo-jidai* (1615-1867), such facilities as the *Kin-kaku* (“golden” pavilion) and the temple garden were largely restored.

The temple garden was designed to incorporate *Kinugasa-yama* [-mountain] (the nearby mountain) in what is called the *shakkei* (borrowed scenery). In the course of laying out the garden, various specially selected rocks were installed in the existing pond. The *Kin-kaku* (“golden” pavilion) formally called the *Shariden*, was constructed, and a scenic lookout was built at the top of the hill in the garden.

The magnificent *Kin-kaku*, overlooking the pond, has shingled roofs. Its second and third floors are entirely gilded with gold leaf, and epitomizes the so-called “Kitayama culture” of the *Muromachi-jidai*. We can feel Yoshimitsu’s dynastic aspirations in the combined architectural style of the *samurai* and aristocrat cultures.

The *Kin-kaku* was burned to the ground in 1950, and an exact reproduction of the original building was completed in 1955.

**Date of Inscription**      Resolved on December 15 and inscribed on December 17, 1994.  
Kyoto City

副題を含め本文は 262 語となった。原文 212 語より語数が多くなった。副題を加えたこと、句を文に独立させたこと、「武家文化と公家文化の融合」という新たな情報を加えたことによるものである。観光客にとって、抵抗がそれほど無い語数と思われる。

### 3. 3 慈照寺（通称、「銀閣寺」）

画像 9 の、慈照寺銀閣は、画像 7 の鹿苑寺金閣と共に、古都京都を代表する小規模建造物と言える。画像 10 は慈照寺（通称、「銀閣寺」）の包括的説明を行う京都市作成の案内板である。9、10 共に、2016 年 6 月に執筆者自身が撮影したものである。

10 は、慈照寺の入り口近くに存在する。

日本語説明と英語説明は内容が一致する。双方共に、本文は情報量がやや多い、と言えよう。因みに、英語説明の、「世界遺産登録」と「登録年月日」を除いた、本文は 284 語である。一般観光客にとって、やや、語数が多いと思われる。

日本語説明は以下の通りである。現地の日本語説明文中の「慈照寺」の文字サイズを大きくし太字にすると、(振り仮名)を入れることを提案する。



**慈照寺**は、ユネスコ（国際連合教育科学文化機関）で採択された世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約に基づき、「古都京都の文化財」のひとつとして世界遺産リストに登録されました。このことは、人類全体の利益のために保護する価値のある文化遺産として、とくに優れて普遍的価値をもっていることを国際的に認められたこととなります。

**慈照寺**は、足利義政が文明4年（1482）に東山山麓に造営した別邸東山殿（ひがしやまどの）を、義政の死後禅寺に改めたものです。東山殿は西芳寺をモデルに造られ、池を囲むように観音堂（銀閣）、持仏堂（東求堂（とうぐどう））などの建物が配されて、文化人のサロンとして賑わっていました。その後、16世紀中期には兵火によって一時荒廃しましたが、17世紀中期に復興されました。

銀閣は、長享3年（1489）に建てられた二層の楼閣で、下層は和様の書院風、上層は禅宗様の仏堂風につくられています。

東求堂は守護仏をまつる持仏堂と書斎を兼ねた建物で、文明17年に建てられました。この建物の背面東側に配された4畳半の「同仁齋」には付書院（つけしょいん）と違棚（ちがいだな）が設けられていますが、これらは現存最古のものであり、書院造の源流と位置づけられています。

また庭園は、戦国時代に荒廃していたものを元和元年（1615）の復興時に改修したものと考えられており、池を中心に多くの名石・樹木が配された池泉廻遊（ちせんかいゆう）式で、石組の細部にきめ細かい意匠が凝らされています。

登録年月日 平成6年（1994）12月15日決定、17日登録  
京都市

英語説明は以下の通りである。「世界遺産指定」の記述を除いた本文は、284語からなる。本文は、4段落9文からなる。

In conformity with the Convention Concerning the Protection of the World Cultural and Natural Heritage adopted by the United Nations Educational, Scientific, and Cultural Organization (UNESCO), Jishoji Temple is inscribed on the World Heritage List as a Historic Monument of Ancient Kyoto. It is thus internationally recognized as a place of exceptional and universal value : a cultural heritage site worthy of preservation for the benefit of all of mankind.

Built in 1482 as a rural villa at the base of the Higashiyama hills by Shogun Ashikaga Yoshimasa, and known as the Higashiyama-dono (Higashiyama Palace), Jishoji Temple was converted into a Zen temple following Yoshimasa's demise. Modeled after Saihoji Temple, with a Kannonden (the "Silver Pavilion"), a Buddha hall called the Togudo, and other buildings situated around a pond, the Higashiyama-dono was in Yoshimasa's day a sort of elegant artistic salon, thronged with artists and cognoscenti. Damaged by fire in the

wars of the mid-16th century, the temple for a time fell into decline, but was restored in the mid-17th century.

The Ginkaku or Silver Pavilion, built in 1489, is a two-storied structure of which the ground floor is built in the *wazō* or Japanese style of architecture known as the *shoin* or “library” style, while the second floor is built in the *butsudo* or “Buddha-hall” style of Zen architecture.

The Togudo, which served both as a hall enshrining the temple’s guardian Buddha and as a study or library, was built in 1485. The room known as the Dojinsai is furnished with a *tsukeshoin* or reading platform and with *chigaidana* or staggered shelves; these are the oldest extant examples of such furnishings, and are held to be the origin of the *shoin-zukuri* style of architecture.

The temple garden deteriorated during the medieval Sengoku or “Warring States” period, but is thought to have been restored, together with the rest of the temple compound, in 1615. An example of the *kaiyu* or “circuit” style of garden, it features a central pond with many superb rocks, trees and shrubs arranged around it. The details of its rock groupings and other particulars exhibit an exquisite delicacy of design.

Date of Inscription Resolved on December 15 and inscribed on December 17, 1994.

Kyoto City

日本語説明、英語説明共に、第一段落の「世界遺産登録」の記述は、本稿で挙げる、他の寺院と共通する文体である。また、最後の登録年月日についても、他の世界遺産と共通している。

各段落共に、3文字分スペースを空けていることには賛成できる。

「世界遺産登録」、「登録年月日」を除いた本文の記述について、日本語説明、英語説明共に、「慈照寺の歴史」→「ウリである観音堂（銀閣）」→「持仏堂（東求堂）」→「庭園」の順に、建造物についても歴史面に重点を置き説明している。この記述順についても賛成できる。しかし、総じて、日本語説明、英語説明共に、本文が「やや長い」と感じられる。

他の世界遺産建造物と共通する「世界遺産指定の記述」について検討を加えたあと、本文を段落ごとに検討を加える。太字は福島による加筆修正案である。

他の世界遺産建造物と共通する「世界遺産指定」の記述について加筆修正案をまず挙げた後、本文を段落ごとに検討を加える。太字は福島に加筆修正案を加えたものである。

「世界遺産指定」の記述については、これまで提案した文体に準じる。鹿苑寺の例に合わせ、「通称、銀閣寺」を加える。

「世界遺産登録」の記述は、以下を提案する。

**The *Jishou-ji* [-temple], popularly called the *Ginkaku-ji*, is inscribed on the World Heritage List as a Historic Monument of Ancient Kyoto, in conformity with the Convention Concerning the Protection of the World Cultural and Natural Heritage adopted by the United Nations Educational, Scientific, and Cultural Organization (UNESCO). It is ~~thus~~ internationally recognized as a place of exceptional and universal value : a cultural heritage site worthy of preservation for the benefit of people all over the world.**

本文中のウリである「銀閣」の記述を、「渋さ」という表現を加え、副題として挙げる。銀閣の「銀」は、一種の直訳であるので、銀閣を“(“silver” pavilion)”と説明する。

—*Gin-kaku* (“silver” pavilion) in the precincts, one of the most famous examples of architecture with the austere elegance of Japan—

本文の原文は、4段落9文284語から成る。やはり、分詞構造、関係詞構造、並列構造などによる「長文化」の例が見られる。原文のアンダーライン、文末の赤い数字は執筆者による。

原文の第一段落は3文から成る。「慈照寺(東山殿)の歴史」と「慈照寺(東山殿)の性質と構成素」について同じ段落内で説明している。

Built in 1482 as a rural villa at the base of the Higashiyama hills by Shogun Ashikaga Yoshimasa, and known as the Higashiyama-dono (Higashiyama Palace), Jishoji Temple was converted into a Zen temple following Yoshimasa’s demise.<sup>1</sup> Modeled after Saihoji Temple, with a Kannonden (the “Silver Pavilion”), a Buddha hall called the Togudo, and other buildings situated around a pond, the Higashiyama-dono was in Yoshimasa’s day a sort of elegant artistic salon, thronged with artists and cognoscenti.<sup>2</sup> Damaged by fire in the wars of the mid-16th century, the temple for a time fell into decline, but was restored in the mid-17th century.<sup>3</sup>

原文は作成者の好みか、副詞用法の分詞構造(分詞構文)の使用が多い。一般的に、分詞構文の使用は、「付帯状況」、あるいは。定式化した懸垂分詞構文(“Judging from...”)などの他は口語では、曖昧さのゆえに避けられる傾向がある。起源を含め、江戸時代までの「鹿苑寺の歴史」を記している。第一文は、文法的誤りは見られないが「長過ぎる」と感じられる。修飾関係が複雑である。

原文1は「鎌倉時代の起源」、「室町時代における足利義政との関わり」、「義政の死後、禅寺への転換」の内容が記されている。分詞構文を節化するなどし、3文に分けることを提案する。東山(連山)を“*Higashi-yama* [-mountains]”とする。最初は「慈照寺」という名称ではなかったことを明確にし、“The site on which the *Jishou-ji* now stands was originally built by Asikaga Yoshimasa....”とする。「義政の死後に慈照寺という禅寺に変わった」という内容であるので、“...it was converted into a Zen temple, and was given its present name, the *Jishou-ji*.”とする。

原文2は「慈照寺(東山殿)の構成素と、性質」を記している。「東山殿」を“the *Higashiyama-dono* [-palace]”と表記し、「義政の時代」を“Yoshimasa’s day”とする。“cognoscenti”を“cultured people”と平明にする。

原文3の分詞構文を節化する。「中世の戦国時代」のことであるので、“the medieval *Sengoku-jidai* (“Warring States”period) (1467-1568)”とする。

本文の第一段落は「慈照寺(東山殿)の歴史」と「慈照寺(東山殿)の性質と構成」が混在しているが、この順に段落分けすることを提案する。

原文の第一段落を以下の通り、2段落、8文に分けることを提案する。

The site on which the *Jishou-ji* now stands was originally built by Ashikaga Yoshimasa, a shogun of the *Muromachi-jidai* [-period], as a rural villa at the base of *Higashi-yama* [-mountains] in 1482.<sup>1</sup> It was also known as the *Higashiyama-dono* [-palace].<sup>2</sup> After Yoshimasa’s death, it was converted into a Zen temple, and was given its present name, the *Jishou-ji*.<sup>3</sup> The *Jishou-ji* was damaged by fire in the medieval *Sengoku-jidai* (“Warring States”period) (1467-1568), and fell into disrepair. It was restored in the mid-17th century.<sup>4</sup>

The *Higashiyama-dono* was a sort of elegant artistic salon in Yoshimasa’s day, and was thronged

with cultured people.<sup>1</sup> It was modeled after the *Saihou-ji*.<sup>2</sup> It had a *Kan'non-den* called the *Gin-kaku* (“silver” pavilion), a *Buddha hall* called the *Tougu-dou*, and other buildings.<sup>3</sup> They were placed around the pond in the temple garden.<sup>4</sup>

原文第二段落は、1文から成る。慈照寺のウリである、「銀閣」の内部について説明している。

The *Ginkaku* or Silver Pavilion, built in 1489, is a two-storied structure of which the ground floor is built in the wayo or Japanese style of architecture known as the shoin or “library” style, while the second floor is built in the butsudo or “Buddha-hall” style of Zen architecture.<sup>1</sup>

関係詞、while節を使用し「銀閣」の構造を説明している。文法的に問題はないが、「長い」という印象を免れ得ない。3文に分ける。銀閣が国宝であることを明示する。「書院風」、「和様」、「仏堂風」は、“the *shoin* [library] style”、“the *wayou* [Japanese] styles”、“the *butsudou* (Buddha hall) style”と表記することを提案する。

原文の第二段落を以下の如く3文に分けることを提案する。

**The *Gin-kaku* (a national treasure), built in 1489, is a two-storied structure.<sup>1</sup> Its first floor is built in the *shoin* [library] style, one of the *wayou* [Japanese] styles of architecture.<sup>2</sup> The second floor is built in the *butsu-dou* (Buddha-hall) style of Zen architecture.<sup>3</sup>**

原文の第三段落は、2文から成る。「東求堂」についての説明である。

The *Togudo*, which served both as a hall enshrining the temple's guardian Buddha and as a study or library, was built in 1485.<sup>1</sup> The room known as the *Dojinsai* is furnished with a *tsukeshoin* or reading platform and with *chigaidana* or staggered shelves; these are the oldest extant examples of such furnishings, and are held to be the origin of the *shoin-zukuri* style of architecture.<sup>2</sup>

原文1について、「東求堂」を“*Tougu-dou* [-hall]”と表記する。第二段落に合わせ、「建設年度」を形容詞用法の分詞構造とし、「役割」に焦点を合わせる。「役割」は、現在にも及ぶ本来の意義を表すと思えるので、「銀閣」の“is a two-storied structure...”に合わせて現在時制とする。東求堂が国宝であることを明示する。

原文2について、“or”を使用し、日本語の英語説明を加えているが、福島(2015.7)、(2015.9)に従い、“*tsuke-shoin* (reading alcove)”、“*chigai-dana* (staggered shelves)”と表記する。セミコロンを用いずに、文を分ける。「づ」を“*dzu[du]*”と表記する。

原文の第三段落を以下の如く3文に分けることを提案する。

**The *Tougu-dou* [-hall] (a national treasure), built in 1485, serves both as a hall enshrining the *Shugobutsu* (guardian Buddha) and as a study or library.<sup>1</sup> The room known as the *Doujinsai* is furnished with a *tsuke-shoin* (reading alcove) and with *chigai-dana* (staggered shelves).<sup>2</sup> These furnishings are the oldest extant examples, and are held to be the origin of the *shoin-dzu[du]kuri* style of architecture.<sup>3</sup>**

原文第四段落は、3文からなる。「庭園」についての説明である。

The temple garden deteriorated during the medieval Sengoku or “Warring States” period, but is thought to have been restored, together with the rest of the temple compound, in 1615.<sup>1</sup> An example of the *kaiyu* or “circuit” style of garden, it features a central pond with many superb rocks, trees and shrubs arranged around it.<sup>2</sup> The details of its rock groupings and other particulars exhibit an exquisite delicacy of design.<sup>3</sup>



原文1について、「(土地などが) 荒廃する」の意味をより明確にし、“**was devastated**”とする。「戦国時代」は、すでに第一段落で説明しているのので、単に“**the medieval Sengoku-jidai**”と表記する。

原文2について、「(池泉回遊式庭園)を強調したい、のであろうが、平明に“**The garden is an example of the chisen-kaiyuu-shiki [-style] teien (garden with a path around a central pond)**”とする。「池泉回遊式」を完全に表記する。「名石、樹木、灌木」については、文を分け具体的に説明する。

原文3について、原文の第二文の「名石、樹木、灌木」の情報を込め、そして、「庭園の評価」を“**Their arrangement shows an elaborate Japanese design**”と、文として独立させる。

原文の第四段落を以下の如く4文に分けることを提案する。

**The temple garden was devastated during the medieval Sengoku-jidai, but is thought to have been restored, together with the rest of the temple compound in 1615.1 The garden is an example of the chisen-kaiyuu-shiki [-style] teien (garden with a path around a central pond). 2 It has many exquisite rocks, trees, and shrubs arranged around it.3 Their arrangement shows an elaborate Japanese design.4**

加筆修正案を含め、全体をまとめると、次の通りである。画像9の、池、岩、灌木などを前に据えた「銀閣」の画像を添付して、英語説明の案内板を独立させて設置することを提案する。

*Gin-kaku* (“silver”pavilion)



**The Jishou-ji [-temple], popularly called the Ginkaku-ji, is inscribed on the World Heritage List as a Historic Monument of Ancient Kyoto, in conformity with the Convention Concerning the Protection of the World Cultural and Natural Heritage adopted by the United Nations Educational, Scientific, and Cultural Organization (UNESCO). It is thus internationally recognized as a place of exceptional and universal value : a cultural heritage site worthy of preservation for the benefit of people all over the world.**

**—Gin-kaku (“silver”pavilion) in the temple garden, one of the most famous examples of architecture with the austere elegance of Japan—**

The site on which the *Jishou-ji* now stands was originally built by Ashikaga Yoshimasa, a shogun of the *Muromachi-jidai* [-period], as a rural villa at the base of the *Higashi-yama* [-mountains] in 1482. It was also known as the *Higashiyama-dono* [-palace]. After Yoshimasa’s death, it was converted into a Zen temple, and was given its present name, the *Jishou-ji*. The *Jishou-ji* was damaged by fire in the medieval *Sengoku-jidai* (“Warring States”period) (1467-1568), and fell into disrepair. It was restored in the mid-17th century.

The *Higashiyama-dono* was a sort of elegant artistic salon in Yoshimasa’s day, and was thronged with cultured people. It was modeled after the *Saihou-ji*. It had a *Kan’non-den* called the *Gin-kaku* (“silver”pavilion), a *Buddha hall* called the *Tougu-dou*, and other buildings. They were placed around the pond in the temple garden.

The *Gin-kaku* (a national treasure), built in 1489, is a two-storied structure. Its first floor is built in

the *shoin* [library] style, one of the *wayou* [Japanese] styles of architecture. The second floor is built in the *butsu-dou* (Buddha-hall) style of Zen architecture.

The *Tougu-dou* [-hall] (a national treasure), built in 1485, serves both as a hall enshrining the *Shugo-butsu* (guardian Buddha) and as a study or library. The room known as the *Doujinsai* is furnished with a *tsuke-shoin* (reading alcove) and with *chigai-dana* (staggered shelves). These furnishings are the oldest extant examples, and are held to be the origin of the *shoin-dzu*[*du*]*kuri* style of architecture.

The temple garden was devastated during the medieval *Sengoku-jidai*, but is thought to have been restored, together with the rest of the temple compound in 1615. The garden is an example of the *chisen-kaiyuu-shiki* [-style] *teien* (garden with a path around a central pond). It has many exquisite rocks, trees, and shrubs arranged around it. Their arrangement shows an elaborate Japanese design.

Date of Inscription Resolved on December 15 and inscribed on December 17, 1994.

Kyoto City

副題を含め本文は 338 語である。原文 284 語より語数が多くなった。副題を加えたこと、句を文に独立させたことなどによる。一般観光客にとっては、抵抗がある語数と思われる。何かの記述を削除する必要があるだろう。

#### 4. おわりに

本稿では、京都市に存在し、外国人観光客にも特に人気がある寺院、清水寺、鹿苑寺（金閣寺）、慈照寺（銀閣寺）に見られた、包括的説明を行う案内板の英語について検討を加えた。

現地の案内板では、修飾関係が複雑で、一般観光客には「読みにくい」と思われるものがある。多くの情報を提供したいという気持ちと共に、語数を減らそうとする心理が働き、その結果、多くの情報を同一文中に収めようとするなどが原因として推測できる。つまり、文を節化、句化しようとし、文を複雑にするのである。

鹿苑寺、慈照寺では、提案したものの語数が多くなった。「現地の案内板に記された情報を生かす」を基本姿勢とした上で、分詞構造を節化したことや内容の異なるものを文として独立させ、さらに、段落分けすることにより「簡潔・明瞭」化を提案した。また、原文には見られない副題を設定した。その結果語数が多くなったのである。

本稿では、現地案内板の加筆修正を行い、語数が多い場合の削減案は提示していない。「簡潔・明瞭」を基本姿勢とするなら、表題、副題を含め、全体の語数を 200 語程度、最大限 250 語程度にまとめることが必要と思える。

今後、提供する情報量と語数とのバランスをとった削減案も必要となるであろう。また、記述順についても吟味する必要がある。

表記上、説明中の「直訳」的なものは、*The Kin-kaku* (“golden”pavilion) の如く “ ” で囲むことを新たに提案した。また、現在のものより大きな活字で、代表的建造物の画像添付の上、英語案内板を独立させて英語案内板作成することを提案した。

また、日本語説明文中に一般の観光客には読めないと思われる建造物などの名称の漢字表記について、本稿では、それらの振り仮名表記についても提案を行った。

本論文執筆にあたり、長岡技術科学大学名誉教授村山康雄氏に資料提供や助言をいただいた。また、文教大学教授岡野雅雄氏に「案内板の視認性」に関する資料をいただいた。文教大学湘南図書館の中村保彦氏には一般観光客の視点にたった意見をいただいた。これまでと同様、提案した英語のネイティブチェックは David Martin 氏にお願いした。

感謝したい。

## 註

- 1) 格調が高いことより、一般人が理解しやすいことに重点を置き、綴字法などの規則性は一般文書ほど強くない。また、設置位置、色彩など、「視覚的認識の容易さ」も含まれる。「量的」とは、適量な情報量のことであり、過度のものは一般観光客から敬遠される。
- 2) 観光庁指針 p.13 「b. 英語の表記方法の基本方針について」では、本稿で扱う「清水寺」を “Kiyomizu-dera Temple”、「東大寺」を “Todaiji Temple” としている。「寺」を意味する構成素が「でら」ではハイフンで分節され、“-dera” とされている。一方「じ」ではハイフンを用いずに “ji” とされている。本稿で挙げる「鹿苑寺」、「慈照寺」、「龍安寺」、「仁和寺」も同じ表記である。日本語を学習する外国人のためにも、双方共にハイフンを用い分節し、“Kiyomizu-dera [-temple]”、“Toudai-ji [-temple]” とすべきと思う。尚、福島は、日本語の建造物名などについてはイタリック体とし、長音表記については国際的に知られている都市名や英語辞書に記載されている日本の事物など以外はワープロのローマ字入力に平行する英文字表記にすることを提案してきている。
- 3) 福島 (2016.7) で挙げた佐賀県吉野ヶ里遺跡などでは、小学生向けにほとんどの漢字に振り仮名が振られている。日本語を学習する外国人のためにも、高校1年生程度で読めない漢字には振り仮名を振るべきと思われる。
- 4) 但し、「金閣寺」のように「金閣」が構成素の場合は細かく音節区分をせず、“Kinkaku-ji” と表記する。

## 参考文献

- 文理編集部 (2015) 『小学3年国語ローマ字』、東京：文理
- ブリタニカ・ジャパン編 (2013) 『ブリタニカ国際大百科事典』小項目電子辞書版 東京：ブリタニカ・ジャパン
- Costello R. B., edit. (1991) *Random House Webster's College Dictionary*, Random House, Inc., New York.
- 福島一人 (2008.3) 「形容詞 'big' 'little' と 'large' 'small' の語法：The Color Purple と Forrester Gump の用例を中心に」『言語と文化』創立20周年記念号、越谷：文教大学大学院言語文化研究所
- (2011.1) 「観光英語 (1)：国宝天守をもつ松本城の案内板の英語」『情報研究』第44号、茅ヶ崎：文教大学情報学部

福島 一人：観光英語 (11)：京都市の観光名所、清水寺、鹿苑寺、慈照寺に見られる案内板の英語

- (2011.7)「観光英語 (2)：国宝天守をもつ、松本城案内板の英語と比較した姫路城、彦根城、犬山城の案内板の英語」『情報研究』第 45 号、茅ヶ崎：文教大学情報学部
- (2012.7)「観光英語 (3)：重要文化財の天守を有する備中松山城、丸亀城、高知城、弘前城の案内板の英語」『情報研究』第 47 号、茅ヶ崎：文教大学情報学部
- (2013.1)「観光英語 (4)：重要文化財の天守を有する丸岡城の案内板の英語」『情報研究』第 48 号、茅ヶ崎：文教大学情報学部
- (2014.1)「観光英語 (5)：重要文化財の天守を有する宇和島城、伊予松山城、松江城の案内板の英語」『情報研究』第 50 号、茅ヶ崎：文教大学情報学部
- (2014.7)「観光英語 (6)：世界遺産に登録されている広島県宮島の案内板の英語」『情報研究』第 51 号、茅ヶ崎：文教大学情報学部
- (2015.1)「観光英語 (7)：日本の城郭などに見られる英語案内板の表記内容再検討と綴字についての提案」『情報研究』第 52 号、茅ヶ崎：文教大学情報学部
- (2015.7)「観光英語 (8)：神奈川県の名所鎌倉に見られる案内板の英語」『情報研究』第 53 号、茅ヶ崎：文教大学情報学部
- (2015.9)「案内板における日本の固有名詞などの英文字表記」『日本実用英語学会論叢』第 21 号、東京：日本実用英語学会
- (2016.1)「観光英語 (9)：神奈川県の名所、三溪園、江の島などに見られる案内板の英語」『情報研究』第 54 号、茅ヶ崎：文教大学情報学部
- (2016.7)「観光英語 (10)：神奈川県と静岡県の名所、箱根、静岡、浜松、伊豆などに見られる案内板の英語」『情報研究』第 55 号、茅ヶ崎：文教大学情報学部
- Hearn, Lafcadio (1932) *Kwaidan*, 東京：審美書院
- ヘボン J.C. 松村明解説 (1974)『和英語林集成』第 3 版 (復刻版)、東京：講談社
- 日立ソリューションズ・ビジネス (2013)『マイペディア百科事典』電子辞書版、東京：日立ソリューションズ・ビジネス
- 市川繁治郎他編 (福島一人他執筆) (1995)『新編英和活用大辞典』、東京：研究社
- 上森鉄也 (2012)「基礎演習でのローマ字教育」『流通科学大学教養センター紀要』第 2 号、神戸：流通科学大学商学部
- 京都府ホームページ「世界文化遺産 古都京都の文化財一覧」(オンライン)、入手先 (<http://www.pref.kyoto.jp/isan/>) (2016.07.05 参照)
- 国土交通省 観光庁 (2014.3)「観光立国実現に向けた多言語対応の改善・強化のためのガイドライン」(オンライン)、入手先 (<http://www.mlit.go.jp/common/001029742.pdf>) (2016.03.03 参照)
- 文部科学省 「ローマ字のつづり方」(オンライン)、入手先 ([http://www.mext.go.jp/b\\_hakusho/nc/k19541209001/k19541209001.html](http://www.mext.go.jp/b_hakusho/nc/k19541209001/k19541209001.html)) (2014.10.15 参照)
- NAVER まとめ 「正しく知っておきたい「ヘボン式ローマ字」の基礎知識」(オンライン)、入手先 (<http://matome.naver.jp/odai/2138576450486274401>) (2014.10.15 参照)
- 新村出編 (2008)『広辞苑』第 6 版、東京：岩波書店
- スクリーチ・タイモン、プライス・マーガレット、大島 明他編 (1999)『トレンド英語日本図解辞典』、東京：小学館
- 柴田正昭 (2010)『外国人のためのローマ字日本語辞典』第三版、東京：東京堂
- 篠田義明 (1989)『アメリカ英語最新ビジュアル辞典』東京：研究社

- 小学教育研究会（2015）『国語自由自在』、大阪市：受験研究社  
竹林 滋他編（2002）『研究社 新英和大辞典』第6版、東京：研究社  
梅棹忠夫（2004）『日本語の将来：ローマ字表記で国際化を』、東京：日本放送出版協会  
渡邊敏郎他編（2003）『研究社 新和英大辞典』第5版、東京：研究社



